

「学生による地域課題解決提案事業」の活動報告

及川浩和・大脇澄男

1. はじめに

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜では、地域連携を目的に加盟校の大学等団体が地域の課題について調査研究し、その解決策を提案する「学生による地域課題解決提案事業」を企画している。本事業は調査研究活動を通じた社会人基礎力の涵養も視野に入れた教育活動である。

本学の工学教育研究室では、かねてより交通事故の属地性に関する調査研究を行っており、今回この提案事業に対して、地域貢献の一環として大学周辺地域における交通事故問題の解決を目的に「特定交差点の事故要因に関する研究—属地性から見たアプローチ—」と題して、これまでの調査研究活動の概要を添えて企画書を提出し採択された。本稿では、本事業の成果報告会までの学生の調査研究活動を紹介し、社会人基礎力との関わりについて述べる。

2. 成果報告会の概要

「学生による地域課題解決提案事業」の成果報告会は、2011年12月10日（土）に岐阜駅サテライト教室（アクティブG）で開催され、採択された11団体14件の研究発表が行われた。表1は、成果報告会に参加した団体名と報告テーマである¹⁾。

表1 団体名と報告テーマ

No	時間	団体名	報告テーマ
1	13:10	岐阜市立女子短期大学・岐阜大学・岐阜経済大学 郡上八幡でのまちなか・まちづくり活性化調査研究会	郡上八幡まちなか・まちづくり活動調査研究
2	13:25	中部学院大学経営学部 西田安慶研究室	観光まちづくりによる岐阜市の地域振興—鶴飼の里のイメージアップによって—
3	13:40	岐阜経済大学 まちなか共同研究室マイスター倶楽部	芭蕉元禄の地を広めるための意識調査
4	13:55	中日本自動車短期大学 工学教育研究室	特定交差点の事故要因に関する研究—属地性からみたアプローチ—
5	14:10	岐阜工業高等専門学校 環境都市工学科都市交通研究室	樽見鉄道と地域医療の連携及び鉄道存続・活性化施策に関する意識調査
6	14:25	東海学院大学絆創成研究会	絆を通じた安心・安全の街づくり —単身世帯及び社会的孤立傾向にある世界の実態調査から—
7	14:40	中部学院大学 人間福祉学科 2年基礎演習Ⅱ 谷口ゼミ	要援護者目線のハザードマップの作成
8	14:55	IAMAS NxPCLab	NxPCLab 活動報告
	15:10	休憩	
9	15:20	中部学院大学短期大学部 社会福祉学科	学生による地域調査と地域自治会の交流事業
10	15:35	中部学院大学子ども学部 子ども学基礎演習I	「学びの森フェスティバル」における子どもの遊びの調査研究
11	15:50	大垣女子短期大学 幼児教育科学科	学生の企画・運営によるおにごっこ大会
12	16:05	朝日大学防犯ボランティア団体「めぐる」	防犯ボランティア活動
13	16:20	朝日大学「法」送局	地域に法情報を発信
14	16:35	岐阜女子大学 観光文化専修	関市のアイデンティティは街づくりの力になる—関JCとの共同研究—

各団体からは、それぞれの専門性を活かした特色のある研究テーマが選定されている。本学からは、モータースポーツエンジニアリング学科1年の三上憂也君、青山諒君、片岡恵人君、友岡毅君の4名（工学教育研究会メンバー）が、「特定交差点の事故要因に関する研究—属地性から見たアプローチ—」と題して、昨年、近隣地域で事故発生件数の最も多かった「関市倉知北交差点」を対象に調査研究を行い、交通事故減少に向けた提案を行った。

3. 調査研究活動

調査研究活動は、1. 調査対象地点選出（岐阜県警察署発行の交通事故データ）、2. 事故資料の提供依頼（図1 関警察署）、3. 提供資料の分析、4. 現地調査（図2）、5. 現地調査の分析、6. 分析結果のまとめと討論（図3・図4）、7. 発表用資料の作成、8. 発表リハーサル、9. 成果発表（図5）、10. 関係機関へお礼と報告（図6）である。学生達は、成果報告会が近づくにつれ、連日、日にちが変わる時刻近くまで討論してまとめ上げた。弱音を吐くことなく、よくここまで仕上げられたと感心している。また、成果報告会では、前日までの不安と緊張が嘘かのように落ち着き上手く発表できたと思う。指導教員として彼らを誇らしく思うと共に、今後の彼らの活躍を大いに期待したい。



図1 提供資料の説明を受けている様子



図2 現地調査

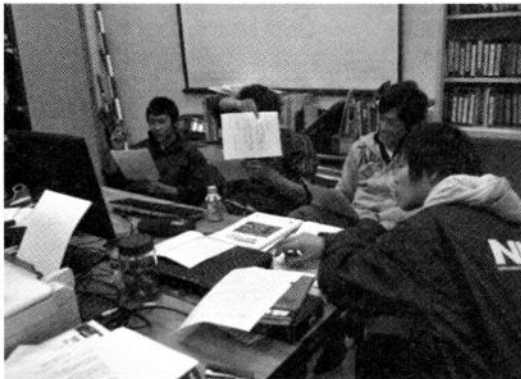


図3 分析結果のまとめ



図4 分析結果の討論



図5 成果発表の様子



図6 関警察署へお礼と報告

3. 社会人基礎力との関わり

「学生による地域課題解決提案事業」と題した今回の企画では、経済産業省が「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として提唱している「社会人基礎力」の涵養も視野に入れている。

社会人基礎力は、3つの力「1. 前に踏み出す力」、「2. 考え抜く力」、「3. チームで働く力」で構成され、それぞれの力はさらに①主体性（物事に進んで取り組む力）、②働きかけ力（他人に働きかけ巻き込む力）、③実行力（目的を設定し確実に行動する力）、④課題発見力（現状を分析し目的や課題を明らかにする力）、⑤計画力（課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力）、⑥創造力（新しい価値を生み出す力）、⑦発信力（自分の意見をわかりやすく伝える力）、⑧傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）、⑨柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）、⑩状況把握力（自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力）、⑪規律性（社会のルールや人との約束を守る力）、⑫ストレスコントロール力（ストレスの発生源に対応する力）の12の能力要素に分類されている²⁾。これらの能力は、思考と行動を積み重ね、自ら活動し経験することによって得られるもので、単に与えられた教材やカリキュラムをこなしていくだけでは育成することが難しい。今回の提案事業のように、学生が自ら企画立案し、専門知識を用い、お互い価値観の違う中でチームとしてまとめ上げ、成果報告を行うといった過程では、これら12の能力要素のすべてが必要不可欠であることがわかる。

図7は、今回の提案事業に参加した本学の学生4名を対象に、企画立案から成果報告までに社会人基礎力の各能力要素がどの程度必要だと感じたかを5件法（0：必要性を感じない、1：少し必要、2：必要、3：多く必要、4：非常に多く必要）でアンケート調査した結果（平均値）である。その結果、①主体性（3.5）、⑤計画力（3.5）、⑦発信力（3.25）の3つの能力要素の得点が高くなった。これは今回の提案事業に参加し調査研究活動を行った経験を通して、1つのプロジェ

クトを成功へと導くためには、自ら主体的かつ計画性を持って行動し、自分の意見をわかりやすく伝えることの重要性を学んだものと推察される。また、経済産業省が平成21年に実施した就職支援体制調査によると、企業は学生に不足していると思われる能力として「主体性」、「コミュニケーション力」、「粘り強さ」の3つを上位に挙げているが、学生の認識は企業の認識とは裏腹に、その能力は企業のいうほど劣っていないと自己評価する調査結果があるが²⁾、前出の高得点となって現れた3つの能力要素は、企業が不足していると指摘する能力とほぼ一致しており、企業(社会)が求める「主体性」や「発信力」の必要性を意識化できたのではないと思われる。

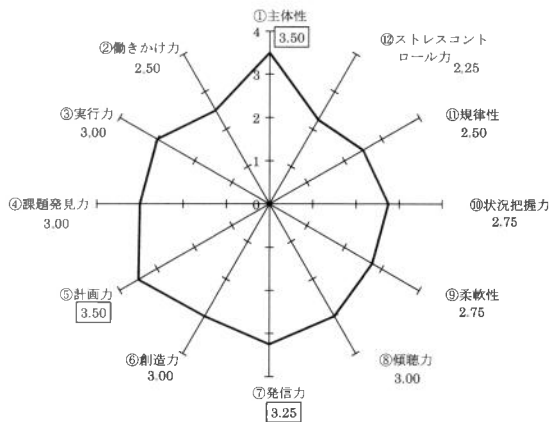


図7 社会人基礎力との関わり

4. おわりに

社会人基礎力の涵養に対する評価方法は、今後の検討課題としたい。また、特定交差点の事故要因に関する研究成果については別途報告する。

工学教育研究室では、確かな学力向上を目指し、今後もこうした経験や体験を通じた学びを育てていく。

参考文献

- 1) ネットワーク大学コンソーシアム岐阜ホームページ, <http://www.gifu-uc.jp/>
- 2) 経済産業省, 社会人基礎力, 河合塾 (2010)